

令和8年3月11日

目黒区立東根小学校
校長 高鍋 恭子

令和7年度 目黒区立東根小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和7年6月14日(土) 午前11時30分～午後1時30分
- ・学校公開参観
 - ・参観振り返り
- (2) 第2回実施日時 令和7年11月1日(土) 午前11時30分～午後1時30分
- ・学校公開参観
 - ・参観振り返り
- (3) 第3回実施日時 令和8年2月10日(火) 午前11時05分～午後1時30分
- ・学校公開参観
 - ・参観振り返り
 - ・学校評価検討

2 参加者

亀井亜佐夫 眞仁田治子 神田 亮 縦山幸彦 平井高士 高田嗣人

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎地域・教員による肯定的な評価は100%、95%と高い水準となった。保護者の肯定的な評価も95%を上回っており、学校教育全体への評価は概ね良好である。「学校は楽しい」と肯定的な評価をした児童は、低学年は95%となり、昨年度より5.4ポイント上がった。高学年は88%と昨年度と同じ水準である。児童の実態に合わせた学習活動の工夫や実践に加え、東根スタンダードを基盤とし、落ち着いて学校生活を送ることができていることが一因であると考え。	・新しい生活時程と午前5時間制により生み出した時間を活用し、学年会、教材研究、OJT研修等の時間を十分に確保し、児童の実態に即した学年経営が行われるようにする。 ・生み出した時間で児童の補充・発展学習の時間を十分に確保したり、ふれあい週間での担任と児童の個人面談を実施したりすることで、担任や専科教員と児童が向き合う時間を確保し、より一層の信頼関係構築に努める。	・学校全体が落ち着いており、良い雰囲気で学校生活を送ることができている。 ・児童が、集中して学習に取り組む姿が多く見られ、1年を通しての成長を感じる。

<p>II 教育目標について</p> <p>・教育目標、時程、教育内容全体について</p>	<p>◎今年度も教育目標の重点目標を「考える子」に設定した。保護者による肯定的な評価は86%と昨年度とほぼ同じ水準であった。今年度から実施の午前5時間制や新たな生活時程について、また、生み出した時間の活用方法、教育内容について、保護者会等や学校だより等で説明・周知に努めたことが理解を得られた要因と考える。一方、地域による肯定的評価は2.8ポイント下がっている。教育内容等を十分に周知できなかったことが要因として考えられる。</p>	<p>・来年度も「考える子」を重点目標に位置付け、自ら考え判断し、礼儀正しい児童の育成に努める。</p> <p>・新しい生活時程やそれにより生み出した時間の活用方法について保護者会や学校だより、学年だより等で十分に説明し、周知を図る。また、地域においても学校だよりや学校ホームページの充実を通じて教育内容について常に情報発信をし、理解を得られるようにする。</p>	<p>・教育目標や時程の変更について、児童や保護者、地域等へ情報を丁寧に伝え、理解を得られるようにする。</p>
<p>心の教育について</p> <p>・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p>	<p>◎児童による肯定的な評価は、低学年・高学年とも95%を上回っており良好といえる。保護者による評価は87%で、昨年度とほぼ同水準を保っている。今年度も、学校公開で、道徳授業地区公開講座を保護者向けに実施したことや、各学年で年2回「道徳通信」を発行し、道徳授業について発信するとともに保護者との双方向の取組を行ったことが心の教育についての理解へつながっていると考える。道徳授業地区公開講座で開催した講演会には、130名を超える保護者の参加があったことも道徳教育への関心の高さが表れている。</p>	<p>・全教育活動を通して、児童一人ひとりに道徳的実践力を高められるように、年間を通じた意図的な指導を行う。</p> <p>・一校一取組として、次年度も各学年の「道徳通信」の年間2回の発行を通して、道徳教育において保護者との双方向のやりとりができる取組を行う。</p> <p>・道徳授業地区公開講座では、講師を招いて保護者向けの講演会を行い、意見交換会も併せて実施できるよう計画する。</p>	<p>・道徳授業地区公開講座の講演会は、よい話で、また参加したいと思えるような内容だった。今後も講師・講演内容などを十分に検討し、保護者が興味・関心のもてる講座であるとよい。また、参加者もセッションなどができるとなおよい。</p>
<p>IV 学習指導等について</p> <p>・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、習熟度別指導、〇〇タイム、主体的に学習に</p>	<p>◎児童による肯定的な評価は、低学年は93%、高学年共に96%を上回っており概ね良好といえる。しかし、保護者による肯定的な評価は</p>	<p>・次年度もPDCAサイクルに基づき、7月に各々の教員がこれまでの自らの指導を振り返り、児童の実態に合わせた授業改善案を作成し、9月</p>	<p>・児童は、学習用情報端末を使いこなし、学習参加している。</p> <p>・教員もICT等を活用し、わかりやすい授業が展開されている。</p>

<p>取り組む態度等の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>81%に留まっている。児童にとって分かりやすい授業が実践されている一方で、習熟度別や個別最適化に応じたより一層の指導の工夫が求められていると考える。</p>	<p>以降に授業改善を実践する機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいきタイム（自己選択学習の時間）の充実を図る。日々の授業といきいきタイムの接面を意図して学んだり、主体的に学習に向かったりする機会を設けることで個々に合った学習の仕方を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表やプレゼンなどが活発に行われている様子も見られた。積み重ねていくことで力が付くと思われる。 ・今後も、主体的に学ぶ児童の育成を目指し、より一層工夫した学習活動を期待する。
<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>◎児童による肯定的な評価は、低学年で94%と4.2ポイント上がり、高学年では、86%と昨年度と同様の水準を保っている。保護者の肯定的な評価は昨年度より3.6ポイント上がり、88%となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●東京都統一体力テストの調査結果から、握力とソフトボール投げの項目が全学年で全国平均よりも低いことが分かった。固定施設を使った遊びや、ボールを投げる機会が少ないことが原因だと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT で体育学習について教員全体で運動の場の提案や指導の工夫等を共有する時間を設定していく。 ・今年度購入したボールや体づくり運動等で活用しやすい教材を活用し課題改善を図っていく。 ・冬季の「なわとび月間」や「ペースランニング」などの一校一取組の活動をより一層充実させる。 ・「めぐろ ここカラダシート」を活用し、一人ひとりの体力や生活習慣の実態について保護者に情報発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭や体育館の広さ、学級数、児童数などから考えて、十分な運動確保は難しい。体育の授業を工夫し運動量を確保したり、外遊びを推奨したりし、児童が体を動かし健康な体の基礎がつけられるようにする。
<p>VI 特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて 	<p>◎肯定的な回答をしたのは、低学年は95%と5.8ポイントも上がった。自分の学年以外の取組も楽しみながら参加できる工夫を講じた成果が表れた。高学年、保護者の肯定的な回答も92%、88%と昨年度と同様の水準を保っている。今年度は7月11日に実施した「なかよしフェスティバル」を学校公開とし、保護者も参観できるようにしたこと、異学年交流活動について保護者も直接参観することができ、理解が深まったと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から児童主体ですすめられるように、委員会活動やクラブ活動、なかよしタイムにおいて、事前準備の仕方を整えてきたことが成果として表れていると思う。今後は、これを継続して行えるかが課題となる。 ・今年度、なかよしフェスティバルを公開にしたことで、児童の取り組みや様子を見せることができた。 ・保護者の肯定的な回答が増えた反面、職員の回答が減っているため、全体周知できるように提案の改善をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年児童が主体的に活動し、行事を盛り上げたり、縦割り班のリーダーとして下学年をまとめたりする力が身に付いてきたことはよい。次年度以降にもつながっていくことを期待する。 ・学校のさまざまな活動を保護者や地域に広く知らせていくことが大切。学校ホームページ以外でも活動の様子をアピールしていきたい

<p>Ⅶ 学校生活全般について</p> <p>＜生活指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 	<p>考える。</p> <p>◎保護者の肯定的な評価は88%となり、昨年度より3.4ポイント上昇し、年々肯定的な評価が増えている。各行事や学校公開での様子、保護者会等やHP等での情報発信により学校の様子が保護者の目に触れる機会が増えたことが要因であると考えられる。</p> <p>◎児童における肯定的な評価は低学年が94%、高学年が87%と昨年度よりはそれぞれ上がっている。これは学習や生活規律の上で、全校で共通した指導を粘り強く続けている結果である。一方で、「学校が楽しくない」「落ち着いて学校生活を送れていない」と否定的な回答をした児童も10%程度いる。児童同士や児童と教員の人間関係、その対応の困難さから学校生活に不安のある児童もいることが要因として考えられる。校内でi-checkの結果を活用し、個々の児童の特性や心理の把握と学級集団の状態の可視化を行うことも必要である。</p>	<p>・「東根スタンダード」について、教職員、保護者、児童との共通理解を測り、粘り強い指導を継続する。</p> <p>・遠足、運動会等の大きな行事だけでなく、日頃の児童の様子を積極的にHP等で発信していく。</p> <p>・日々の児童との関わりや、ふれあい月間や、月1回実施しているいじめに関する「学校生活アンケート」を通して、児童理解に努める。また、i-checkを活用し、学校生活の充実を図るとともに、いじめ等の諸問題の早期発見と対応を促進する。そして、いじめ対策委員会や生活指導夕会での情報共有を通して、教職員全体で情報共有を行う。一人ひとりの児童を見守っていることを児童が実感することで安心感を与える。</p>	<p>・「東根スタンダード」は、適宜見直しを図り、実態に合った内容にする。</p> <p>・児童の意見が反映させられるような体制を検討する。</p> <p>・年度初めに、教職員・児童・保護者と共通理解を図った上で、継続的に指導を続けていくことが大切である。</p> <p>・いじめ把握は、学校生活アンケート結果と日頃の児童の様子を見取ったことの両方から行っていく。</p>
<p>＜防災教育・安全指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 	<p>◎安全教育については保護者で肯定的評価93%と昨年度と同じ水準となっている。児童の肯定的評価は94.5%を超えており、概ね高い水準といえる。保護者の「犯罪被害や交通事故を防ぐための具体的な取組」に関する肯定的な回答は、87%にとどまるため、校内で行っている安全指導での具体的な取組についての</p>	<p>・毎月の避難訓練や各学年のセーフティ教室の様子を学校ホームページに掲載するなど、防災や安全についての学校の取組を保護者や地域に積極的に発信する。</p> <p>・学期内や長期休業日中に「防災ノート」「GIGA ワークブック 東京」を計画的・効果的に活用し、防災や情報モラルについて家庭と連携して考える機会を設</p>	<p>・安全指導を全校で計画的に継続して行い、児童の防災意識を高める。</p> <p>・地域の防災訓練や交通安全教室などに積極的に参加するよう呼びかけたりセーフティ教室などへの案内を発信したりし、家庭での防災意識をさらに高めるようにする。</p> <p>・防災教育、安全教育であ</p>

	指導やセーフティ教室の実施等の周知や理解が十分でないことが考えられる。	ける。	ることがはっきりわかるよう、トピック立てて保護者や家庭に伝えると理解を得られやすいと考える。
<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・ 近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>●教職員による肯定的評価は昨年度より 3 ポイント下がり、保護者の肯定的評価も 2.5 ポイント下がった。約 21% が異校種交流について「判断できない、わからない」と回答している。活動の様子が伝わっていないことが要因として考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの活動を継続し、充実化させていくとともに、小学校から発信できる活動も考えていく。 ・ 小中連携、幼保小連携の活動について、保護者・地域への発信を粘り強く続ける。HP や学校だより等で発信するなど発信の仕方を充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中の連携であることがはっきりわかるようカテゴリ分けするなどして、HP やお便りなどで発信するとよい。行事などと同じと捉え理解が深まっていないことも考えられる。 ・ 中学校に小学生が見学に行く、中学校の教師による出前授業などの交流ができるとうい。 ・ 1 年生と幼稚園・保育園との交流や情報共有を充実させ、スタートをスムーズに進められるよう連携を深めることが大切。
<p>Ⅷ 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の情報発信の充実について 	<p>◎地域・教職員による肯定的評価は 88~99% と昨年度と同様の水準である。学年毎に HP 担当者を決め、学習活動や各行事への取組の様子を HP に掲載することにより、広く活動の様子が伝わったことによるものと捉える。</p> <p>保護者による肯定的評価は 86% と、昨年度より 6.5 ポイント上昇した。紙面で配布する手紙を精選したこと、Home & School による情報発信に保護者が慣れてきたこと、学校便りに下校時刻や学校行事等の詳細を記載し、学年・学級便り等は各学年・学級の学校生活の様子を具体的に発信するように変更したことも一因と考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年毎の HP 担当者を中心に、各学年の活動の様子や学校行事の様子等を広く知らせる取組を継続して行うとともに、より一層内容を充実させていく。今年度に引き続き、学年便り等で、学年・学級の児童の具体的な様子を発信するようにする。 ・ Home & School による情報発信について保護者により周知徹底する。 ・ より具体的な児童の様子、学級・学年の様子が伝わるよう、保護者会のもち方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどのものが、配信になってきており、便利さもあるが、情報過多で美落としなどが増えることも懸念される。 ・ 学校ホームページの充実や C4th Home & School を活用することは、今後も継続して行っていく。